

板橋区における障がい者虐待の通報等受付状況

令和5年度における障がい者虐待の通報受付状況について、10月末時点での件数を以下のとおり報告する。

1 受付場所別の内訳

受付場所	令和4年度	令和5年度 (10月末時点)
虐待防止センター	17	14
福祉事務所（3ヶ所）	6	2
健康福祉センター（5ヶ所）	2	1
障がい政策課	20	11
夜間等相談窓口	7	7
予防対策課	0	0
その他（東京都、警察等）	0	6
合 計	52	41

2 相談・通報・届出者の内訳

相談・通報・届出者	令和4年度	令和5年度 (10月末時点)
障がい者本人	11	10
家族・親族	1	4
近隣住民・知人	2	4
福祉サービス関係者	24	15
医療関係者	2	2
行政・教育機関	8	2
その他（労働局、警察、元支援員等）	4	4
合 計	52	41

3 被虐待者の障がい別内訳

※ 通報時本人より申告のあった種別（重複障がいは、それぞれに計上）

※R5年度については10月末時点の件数

障がい	身体		知的		精神(発達含)		不明	
年度	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5
人数	12	12	25	23	17	15	4	1

4 虐待種別の内訳

※重複する場合はそれぞれに計上

※R5 年度については 10 月末時点の件数

種別	身体的		性的		心理的		放棄・放置		経済的	
年度	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5
件数	14	21	4	4	26	17	7	2	15	4

5 虐待者の内訳と虐待認定件数

虐待者	令和4年度		令和5年度 (10月末時点)	
	総件数 (実件数)	虐待認定 件数	総件数 (実件数)	虐待認定 件数
養護者	23	7	20	5
障害者福祉 施設従事者等	23	3	14	1
使用者	3	2	2	1
その他	3		5	
合 計	52	12	41	7

6 令和5年度に受け付けた通報・相談のうち、虐待認定したケース事例を抽出（虐待程度については、「資料3-2虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	社会福祉施設従事者	身体的 心理的	<p>・放課後等デイサービスの職員が、利用者から他害行為をうけたことで感情的になり、利用者の胸元を蹴った。</p> <p>・利用者は全治2週間のけがを負った。</p> <p>※通報を受けた時点では、利用児は既に当該放課後等デイサービスを退所していた。</p>	<p>【緊急性：有り】</p> <p>被虐待児の胸元にあざができており、心身の健康を害していること、当該施設の利用児にも虐待行為が行われている可能性があることから、緊急性有りと判断した。</p> <p>【虐待認定：有り】</p> <p>防犯カメラにて被虐待児を蹴る場面を確認したこと、虐待が疑われる職員が、被虐待児を蹴ったと認めたことから、身体的虐待有りと判断した。</p> <p>【虐待程度：中度～重度】</p> <p>被虐待児の胸元にあざができており、通報内容以外にも虐待と疑われる行為があったこと、日常的に強い口調での指導が行われていたことを確認したため、中度～重度と判断した。</p> <p>【対応】</p> <p>・施設に対し、障がい者虐待防止に関する管理体制、虐待防止研修の内容、職員への意識啓発の改善計画を求めた。</p> <p>・改善計画が実施されていることを確認するため、当該事業所を訪問し、支援の様子を視察した。</p>
2	使用者	経済的	<p>知的障がい者の雇用にあたり、最低賃金減額特例許可で許可されている業務以外の業務に従事させ、最低賃金以下の賃金を支払っていた。</p>	<p>【緊急性：無し】</p> <p>最低賃金以下ではあるが、給与は支払われており、日常生活が維持されていることから、生命の危機に及ぶ状況ではないため、緊急性無しと判断した。</p> <p>【虐待認定：有り】</p> <p>最低賃金以下の賃金で雇用していたため、経済的虐待有りとした。</p> <p>【虐待程度：軽度～中程度】</p> <p>賃金の支払いが全くなかった状況ではなく、家賃、公共料金等の支払い遅延といった状況までは確認できていないため、軽度～中程度と判断した。</p> <p>【対応】</p> <p>・労働基準監督署より、企業に対して是正勧告、監督を行った。</p>

7 令和5年度に受け付けた通報・相談のうち、虐待認定以外のケース事例を抽出（虐待程度については、「資料3-2 虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	身体的 心理的	<ul style="list-style-type: none"> ・同居している母から怒鳴られる、蹴られている。 ・母に「殺してやる」と言われた。 	<p>【緊急性：有り】</p> <p>虐待と疑われる養護者と同居しているため、緊急性有りと判断した。</p> <p>【虐待認定：判断できない】</p> <p>母や支援者への聞き取り調査において、通報内容にある言動を行った事実を確認できなかったため、虐待の有無について判断できない。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人、母、支援者で話し合いを行い、互いの思いを共有した。 ・本人の意向から、母との同居は継続するため、本人と母との関り方についてルールを決め、衝突要因の解決を図った。 ・本人の状態や家庭状況を、保健師、訪問看護師が定期的に確認する支援体制を構築した。
2	養護者	経済的	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームに入居している知的障がい者の通帳を養護者が管理しており、本人には少額の小遣いしか渡していない。 ・グループホームの職員が、養護者に本人の通帳の開示を求めているが、応じてもらえない。 	<p>【緊急性：無し】</p> <p>本人の生命の安全性は確保されているため、緊急性無しと判断した。</p> <p>【虐待認定：虐待なし】</p> <p>養護者から通帳を開示してもらったところ、養護者による使い込みはないことを確認したため、虐待ではないと判断した。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小遣いの金額を増額した。 ・毎月通帳の取引明細をグループホームに開示することとした。